



住吉教会 2012年度テーマ  
「殉教者の霊性を生きる」  
—信仰刷新の年—

## おじいちゃんのような神

赤波江 豊 神父

子どもはまず親から愛情を受けます。子どもは父親の存在を通して初めて「天におられる私たちの父よ」と呼ぶ神を正しく理解し、また母親の愛情を経験してこそ初めてどの母親にもまして私たちを無限の愛で包んでくださる神の慈しみを体験します。しかし子どもの信仰の成長を考えると、両親の存在だけではなく別の角度から神の愛の媒介者の存在について考えていいのではないかと思います。

9月には敬老の日を迎えます。祖父母にとって孫の存在は特別なものです。即ち自分の子どもとは別の意味で「可愛くてたまらない」存在です。また子どもにとっても時々育児や仕事のことで充分かまってあげられない両親に代わって自分を甘えさせてくれる祖父母の存在は貴重なものです。

このように祖父母にとって可愛くてたまらない孫の存在と、その祖父母に安心して甘えることのできる孫の関係は、特に小さい子どもが神の愛を体験していく上で、両親と子どもの関係とは別の意味で非常に大切ではないかと思います。祖父母と孫の関係を通して、小さい子どもにとって神はいつも自分の存在を喜び、安心して甘えることのできるやさしいおじいちゃん、マリア様もやさしいおばあちゃんのようなお方であることを知るようになり、そのような神に年を経た私たちも「子どものように」（マタイ 18章3節）いつも全幅の信頼をもって駆け寄っていくことを生涯学び続けるのです。小さい子供たちが時々主の祈りの「天におられる私たちの父よ」の代わりに「天におられる私たちのおじいちゃん」とか、アヴェ・マリアの祈りの「アヴェ・マリア、恵みに満ちた方」の代わりに「おばあちゃん、恵みに満ちた方」と祈るのもいいことかも知れません。

子どもたち、おじいちゃん、おばあちゃんに甘えなさい！

### 感謝献金について

私たちは誕生から始まって受洗、七五三、入園、入学、初聖体、堅信、入試、成人式、就職、結婚など人生の節目で神様からたくさんのお恵みをいただいています。このお恵みに対する感謝の気持ちを献金という形で神様に表すこともできます。あらゆる場で神に感謝をささげましょう。（赤波江神父）